

MCL盛岡医療大学校 シラバス作成ガイドライン

1. シラバス作成の基本方針

シラバスの作成に際しては学生が授業の目的を正しく理解し主体的かつ意欲的に取り組めるよう、学生にとって分かりやすい具体的な記述とする。また、授業計画は不断に見直し、適時その内容を反映するものとする。

実務経験のある講師による授業については、その講師の実務経験の内容およびそれを授業にどのように活用しているかを明示するものとする。

2. シラバスの共通記載項目と記載要領

項目	記載要領
学科	学科名を記載します。
分野	基礎分野、専門基礎分野、専門分野のいずれかを□で囲みます。
科目名	授業科目の名称を中央揃えで記載します
講師名	担当する講師を中央揃えで記載します。
年次・開講時期	全角数字を用い、年次と開講時期は中点（・）で区切り記載します。 開講時期は前期・後期・通年より選択します。
時間数／単位数／授業回数	全角数字を用い、間は全角斜線（／）で区切り記載します。
教育方法	講義・実技・実習・演習から選択し□で囲みます。
授業概要（目的）	学習した内容がどのように役立つのかを示し、授業を受けると「こんなことができるようになる」という具体的なイメージがもてるよう記載します。
目標	授業を修了した時点で出来るようになって欲しい行動を「〇〇できる」という表現で、かつ学生を主語にして記載します。 授業概要と対応させて、複数の目標を設定します 概念的な表現ではなく、知識・態度・技能の3領域に分けて記述します。 知識：述べる、説明する、分類する、使用する、適用する、応用する 態度：行う、表現する、参加する、コミュニケーションする、始める 技能：実施する、調べる、準備する、工夫する、動かす、感ずる 一つの文章には一つの目標を記載します。 行動目標が評価される条件・基準を記述します。
授業内容	教育内容の欄には授業回数を記載した上で主な内容を記載します。 教育方法の欄には講義、グループワーク、実技、実習、演習のいずれかを記載します。また、留意点（評価についての注記や必要な予習等の特記事項）がある場合は記載します。
成績評価の方法	別途定める「成績評価の方法と基準」に従い、当該科目の評価に必要な評価項目を選択し、それぞれの評価割合を設定します。 (例) 筆記試験による評価、試験、レポート等による総合評価等
テキスト・教材・参考書	授業で使用するテキスト、教科書、教材、参考書等を記載します。
担当教員の実務経験の有無	講師が授業科目に関連する実務経験者の場合は有に○をつけ、実務経験の内容欄に経験の概要を記載します。 実務経験者でない場合は無に○をつけます。

※1枚にまとめて記載してください。